

研究課題名「抗腫瘍薬に関連した薬剤性肺障害と抗腫瘍薬の効果・有害事象に関する多施設観察研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

病理学的に肺がんと診断されており、2009年1月1日～2021年3月31日に、抗悪性腫瘍薬を用いた治療を受けた方

2. 研究目的・方法・研究期間

目的：

抗悪性腫瘍薬は多くのがん患者さんにおいて、根治率の上昇や進行がんにおける症状緩和・延命を目的に使用されます。しかし、がん細胞のみでなく正常細胞に対しても作用するため、治療による副作用は避けられず、期待される治療効果と予想される副作用のバランスを考慮して治療選択を行う必要があります。治療関連死も1-2%程度で発生するため、副作用について理解を深めることは非常に重要です。抗がん剤治療によっておこる副作用の中で、頻度が低くなく、かつ治療の継続が困難となったり、生命に関わったりし得るものとして薬剤性肺障害が挙げられます。

薬剤性肺障害は、薬剤に対する過敏反応や薬剤そのものによる肺へのダメージの結果として生じる間質性肺炎のことです。中でも日常臨床で最も薬剤性肺障害を起こす頻度の高い薬剤に抗悪性腫瘍薬があります。癌治療中に薬剤性肺障害を起こすと、原因となった抗悪性腫瘍薬の投与中止を余儀なくされたり、体調を著しく損ねて、時には致命的になる場合もあります。近年の癌治療の進歩に伴い、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、従来の抗癌剤とは異なる作用機序の薬剤も次々に実用化されていますが、多くの場合副作用も従来の薬剤とは異なっており、薬剤性肺障害をはじめとした副作用についても頻度や予後に関する情報が乏しく、対応に苦慮する場面も少なくありません。

今回の研究の目的は、肺癌の治療中に、まだデータの不十分な新規の抗悪性腫瘍薬により引き起こされた副作用の臨床的特徴、発症予測因子や予後に及ぼす影響を明らかにし、同時に抗悪性腫瘍治療の効果を予測できる因子を評価することです。

方法・研究期間：

この研究の症例適格基準に該当した肺癌の患者さんの診療録を用いて、後ろ向きに登録して調査します。研究の期間は、実施承認日～2022年3月31日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

用いる情報は、病歴、治療歴、副作用等の発生状況、生年月日、カルテ番号 等です。

4. 外部への試料・情報の提供

研究事務局へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。方法としては、必要な情報が記録された用紙が研究事務局あてに封書で郵送されます。対応表は、それぞれの共同研究機関で厳重に保管して、研究事務局を含み外部へ持ち出すことはないようにします。研究事務局における対応表は鍵のかかる棚で厳重に保管されます。

5. 研究組織

研究事務局

名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 阪本考司

研究分担者

名古屋大学大学院医学系研究科放射線科学・准教授・岩野信吾

名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学・病院助教・森瀬昌宏

名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学・准教授・橋本直純

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・大学院生・松澤令子

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・大学院生・神山潤二

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・大学院生・堀翔

名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器内科学・病院助教・田中一大

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学・大学院生・玄崇永

共同研究機関

公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 木村智樹

半田市立半田病院 呼吸器内科 小川雅弘

名古屋掖済会病院 呼吸器内科 島浩一郎

中京病院 呼吸器内科 浅野周一

中部ろうさい病院 呼吸器内科 松尾正樹

名古屋第一赤十字病院 呼吸器内科 横山俊彦

刈谷豊田総合病院 呼吸器内科 吉田憲生

江南厚生病院 呼吸器内科 日比野佳孝

* 共同研究機関では、各機関での倫理審査委員会の承認後に研究を開始します。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

当院担当者

江南厚生病院 呼吸器内科 宮沢亜矢子

TEL：0587-51-3333

研究代表者：

名古屋大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学

阪本考司